

学生による履修相談の取り組みの成果と課題 —行列のできる履修相談じよ及び 抽選漏れのための履修相談じよの実施から—

野勢祐樹¹⁾、井上由香理¹⁾、阿部美咲¹⁾、光宗 榮¹⁾、高木美和¹⁾、吉田 博²⁾

1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学大学開放実践センター

1. はじめに

我が国の大学では進学率の上昇に伴い、資質・能力、興味・関心、知識などの面において、多様な学生が入学してくるようになった。このような現状から、大学における学生支援は必要不可欠なものになってきたといえる。特に近年では、学生同士で相談に応じたり、手助けを行ったりするピア・サポートが注目されており、大学がピア・サポート等の制度を導入するケースも増えてきている。日本学生支援機構の調査によると、ピア・サポート等の制度を実施している大学は、2005年の調査では全体の12.9%であったものが、2008年の調査では21.3%に増加したことが明らかにされている¹⁾。このような学生同士によるサポートは、今後さらに求められることになると考えられる。徳島大学においても、今年度学生による学生支援チーム Ways!^{※1}が、学生による履修相談を実施した。

2. 学生による履修相談の実施のきっかけと本発表の目的

Ways!は、履修登録時の新入生特有の不安を、上級生がサポートすることにより軽減させることを目的として、履修登録の時期である4月に履修相談を実施した。教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ(学生WG)との共催で、

^{※1} Ways!とは、大学生の充実した学習・研究活動を実現するために、日常的な学びを、教職員とともに学生視点からアシストする学生チームである。履修相談などの新入生サポートや、学生が学びについて考えるような全学イベントを企画・開催している。

「行列のできる履修相談じよ(以下、履修相談)」を実施し、さらに「抽選漏れのための履修相談じよ(以下、抽選漏れ相談)」を実施した。実施にあたっては、加野(2011)が危惧しているように、学生による履修相談は時に相談者に対し悪影響を与える恐れがあるため²⁾、①常に客観的視点からの意見を述べる、②シラバス・履修の手引きを常に参照する、③教職員との連携を重視するといったことに注意した。また、企画後に総合科学部新入生全員を対象にアンケートを実施した。その中で、「これでいいのか不安だったが、先輩に見てもらうことで安心して履修登録できた」、「大学に通う目的を再認識できた」といった意見が多数寄せられており、このことから今回の履修相談が、新入生の不安軽減や意識向上などにつながっていることが明らかになった³⁾。この結果を受けて、Ways!では4月に実施した各履修相談じよを前期・後期の毎年2回実施することとして、本年9月に再び履修相談じよを開設した。そこで本発表では、後期の履修相談じよにおいて実施したアンケートなどから、学生による履修相談の成果を検証する。

3. 行列のできる履修相談じよ及び抽選漏れのための履修相談じよ

後期の履修相談は9月26日～9月29日の4日間、抽選漏れ相談は9月30日、10月3日～10月6日の5日間実施した。来場者数は、履修相談においては43名、抽選漏れ相談においては24名であった(いずれも延べ人数)。今回は総合科学部の1年生を主な対象としていたが、総合科学部の上回生や他学部生も訪れた。なお、履修相談は初日のみ3号館スタジオで、それ以降と抽選漏れ相

談は4号館の学生支援室(当時)にて実施した。相談スタッフはWays!に所属する学生が務め、相談ブースごとに1~2名ずつスタッフを配置し、相談に応じた。履修相談では、主に自身で組んだ時間割が適切かどうか不安な学生や、履修すべき授業が分からない学生らが相談に訪れた。抽選漏れ相談は、全学共通教育開講授業の抽選期間中に開設していたため、抽選に漏れた学生が多く訪れ、相談内容も抽選漏れをしてしまった授業の代わりに履修する授業についての相談が大半を占めた(図1)。

4. 結果と考察

履修相談では参加者アンケートを実施し、うち33名から回答を得た。まず「本企画は役に立ちましたか？」(5件法)という設問においては、全員が大変役に立った、または役に立ったという評価をしており、94%の方が大変役に立ったと回答している(図2)。また、アンケートの自由記述から、特に役に立った点について「ガイダンスやシラバスでは分からないことを聞いた」、「学生同士なので気軽に質問できた」といった意見が寄せられた。これらの結果から、本企画は訪れた学生の多くにとって、有益であったことがうかがえる。一方で、改善すべき点においては、実施時期や実施場所の再検討や相談スタッフのさらなる増加、広報活動を増やすことなどが挙げられた。これらは、今後継続的に実施するためにもより効果的に実施できるよう、さらに改善点を洗い出し、再検討していかなければならない。

5. 今後の展望

今回実施したアンケートにおいて「次回以降、上回生も対象とした履修相談じよがあれば、利用したいと思いますか？」という設問では、全体の6割以上の方が「ぜひ利用したい」と回答している。このことから、今後は新入生のみならず、上回生などに向けても実施できるよう検討していく余地があると考えられる。また、Ways!では今年度の履修相談での経験をもとに「学生のための履修の手引き(総合科学部版)」を作成した。こ

れは、来年度以降の履修相談や大学入門講座等で活用していく予定である。具体的にどのように利用していくかは現在、総合科学部教務委員会と検討を行っている。このように各部局との協力体制を築いていくことも必要になってくるのではないかと感じる。



図1 履修相談じよの様子

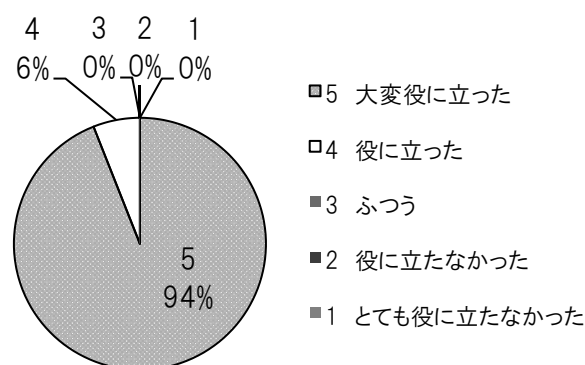


図2 本企画は役に立ちましたか？

参考文献・資料

- 1) 日本学生支援機構：大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査(平成20年度)
http://www.jasso.go.jp/gakusei_plan/torikumi_chousa.html#soshiki (2011.11.15)
- 2) 加野芳正：学生支援は「誰が」、「何を」支援するのか、高等教育研究叢書、112、1-15、2011
- 3) 吉田 博，光宗 榮，野勢祐樹：新入生に対する学生支援，第59回中国・四国地区大学教育研究会プログラム集，8，2011